

# 令和3年度都市建設委員会行政視察報告書

都市建設委員長 伊藤 康平

【視察日程】 令和3年11月2日（火）

【出席者】 委員長 伊藤 康平  
副委員長 阿部 智  
委員 秋山 陽、小松崎 文嘉、段木 和彦、盛田 眞弓、  
川岸 俊洋、森 茂樹、中島 賢治、三須 和夫  
随行員 西森 照泰、遠藤 知美、三部 雅人

## 【視察地及び調査事項】

1 千葉市動物公園

(1) 千葉市動物公園リスタート構想における重点取組について

## 【視察報告】

<b>調査目的</b>	<b>1 千葉市動物公園</b> 評価の高い他市動物園の特徴分析、及び本市動物公園リスタート構想における重点取組の進捗と今後の展望について調査するとともに、肉食動物の導入等リスタート構想の整備状況を現地視察する。
<b>視察概要</b>	<b>1 調査項目</b> (1) リスタート構想における重点取組について  <b>2 説明者</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 鎗木動物公園長</li><li>・ 清田動物公園副園長</li><li>・ 木津動物公園副園長</li></ul> <b>3 現地視察の様子</b>  <p>動物公園長、副園長から評価の高い他市動物園の特徴分析及び本市リスタート構想における重点取組の進捗と今後の展望について説明を受ける。</p>



ちばZOOフェスタ・2021～アカデミア・アニマリウム～におけるポスター発表を観覧。



ライオン舎  
アマゾンほしい物リストの寄附によるミートキャッチャーが設置されている。



平原ゾーンではエキゾチック感のある植物を採用し、乾燥した草原風景を演出。



成人層をターゲットにしたサバンナカフェ  
飲食サービスの拡充による滞在環境の整備を進めている。





各所で園長の説明を受ける。



資料の説明聴取、園内視察を踏まえて意見交換を行った。

#### 4 主な質疑・意見（□：質疑・意見 ■：答弁）

□ 育ちすぎた樹木と大池の話は、自然を生かし、かつどうやってアピール性も持っていくかということは、課題だと感じた。

また、動物科学館は、雰囲気づくりや古くなった展示を改善する点も課題だと改めて感じた。

とても可能性は感じるので、どうやってアピールして大勢の人に楽しんでもらえる施設になるかということがとても大事だと思う。

□ 園内を見学して、カラスやスズメが入りこんでいる点が気になった。カラスが展示動物を傷つけてしまう例もあるようで、今後どのように対策していくのか。

■ スズメについては、今の網のメッシュ目だとスズメが通ってしまうので、鳥インフルエンザ対策も含めて、網目を小さくして防ぐことが考えられる。

カラスについては、実は歴史が長く、昔から依然としてねぐらが継続している。先ほど、園内の動物たちの住環境をよくする動物の福祉の話をしたが、逆にカラスの住環境を悪くしていかないと鳥害は防げないという点で、課題だと思っている。

□ ただ園内を回って動物がいるというだけだと寂しいので、その中でのなるほどとなる発見があると、生物やその他の課題に対して興味が出て、学ぶという面での充実感が出てくるのではないかと。園内を回りながら園長から説明を添えていただき、その機能を、園を訪れる方がどうやったら手軽に体感できるのかということを考えてほしい。

あとは、写真映えするようなところや、動物園という特殊な場所でゆっくりできるカフェがもっとあるといいと感じた。

■ 園内を回っていただいて必要な情報を入手する手段は、時代に即したのものを使って取り組みたいと思っている。展示の前に2次元バーコードを設置し、スマホ等を使ってYouTubeで見ただけするなど、ゆくゆくはそういったものを取り入れながら、必要な時に必要な情報を得られる環境を充実させていきたい。

お客様のおくつろぎの場面では、市民のご寄付によってパラソルをいただいたり、鋭意取り組んでいるところだが、より一層憩いの空間づくりについて邁進してまいりたい。

	<p>□ 本日の視察で一番興味深かったのは調査・研究の発表の部分で、地味かもしれないが、あのような試みは非常に重要。今後、動物園や動物公園に対して社会から求められる機能に変化する中で、調査・研究をしっかりと行っていくことは、日本の動物園、動物公園の走りになると思うので、今後の展開に期待している。他の大学などいろいろな機関と連携して、しっかり環境を整えていってほしい。</p> <p>■ ご指摘があったとおり、学術研究は動物園を支える基盤だと思っている。我々の自己研鑽、内なる足腰を鍛えていくということからして、学術研究あるいは教育というテーマに対してはより一層強化していきたい。</p>
<p><b>委員の所感</b></p>	<p>□ 今後は、動物が自然の中でどの様に過ごしているかに焦点を当てて展示も行っていくとの説明があった。ハシビロコウが大人気ということで、この動物を千葉市動物公園の一つの象徴として、より一層取り組んでもらいたい。</p> <p>滞在環境の整備における課題として、敷地が広いことから休憩所をいくつか設け、そこにカフェや食事がとれるお店があるとよいのではないかと感じた。その際も動物を見ることができるといった環境を生かし、提供するものも見映えのするものが好ましい。また価格帯も安くしすぎず、多少高くてもそれに見合ったサービスを提供できるのがよい。</p> <p>新たな発見として、動物の豆知識を説明してくれる機能がほしい。スマホを取り出し、読み取るのはいちいち大変なので、例えば位置情報で自動的に説明が流れる機能などを作ることができればよいのではないか。</p> <p>体験できる、共有できる空間があるのも面白いと考える。ゴリラの力を感覚的に体験できるなど、五感で感じることは楽しみながら学べるのではないか。「なるほど」と感じる体験ができる仕組みをもっと増やしてほしい。大人が集まってナマケモノがどこにいるか探し合う場面があったが、これも一つのヒントになると思う。</p> <p>モノレール動物公園駅に到着する際のアナウンスや駅での音楽について、もっと動物公園に着いたという演出を工夫してもらいたい。モノレールに乗っていても動物公園駅でのワクワク感はない。</p> <p>動物園としての考え方や視点について学べたが、名前にもあるように、公園という視点からもアプローチした取組や考え方があるとより魅力ある施設になるのではないか。子供が楽しめるのはもちろんだが、</p>

	<p>大人同士でも楽しめて学べる動物公園を目指してほしい。</p> <p>□ トイレの整備が始まってよかった。園長のトイレへの所感が聞けてよかった。きれいなトイレがあることを明示してほしい。  高年齢者の移動を考えてほしい。  食べ物も大人向けのものも出してほしい。  動物舎の命名権、物品の企業からの提供もよかった。</p> <p>□ 老朽化については、あまり気にならなかったが、スペースの有効活用は必要かと思う。以前に比較すると動物の見せ方に工夫が感じられた。  動物科学館の外観についてはペイント等でもよいので工夫が必要なのではないか。  外部から侵入してくるカラスやスズメ等への対策は必要なのではと思う。</p> <p>□ コロナ禍で、他市の動物園に視察に行けない中でも、特徴的な施設の事例を紹介していただき、理解の一助となった。  また、動物科学館が日本の中で一番古くからある施設であるとの認識がなかったため、より感慨も深まった。それゆえ、展示物の劣化や壊れて撤去せざるを得ない状況なども多く、課題として改めて認識した。  様々、工夫もして、尽力していただいていることもわかった上で以下、重点取組として考えたいものを列挙する。  樹木の伐採と剪定（大池やバードホールの外観を活かす）。動物科学館の展示室、空きスペースの活用（装飾による雰囲気づくり）。展示室4と展示室5の鳥類の説明展示は劣化が著しいため早急な改善が必要ではないか（照明による焼けで不明瞭）。飼育員による調査や研究の展示は有意義であるが見せ方を工夫しないと見えない（飼育員ならでの知識に驚きと発見がある）。中高生等、若い世代には「動物の福祉」「SDGs」などの観点でアピールすることは響くのではないかと思う。</p>
--	---



	<p><input type="checkbox"/> 展示における動物の姿をどう見せるのかという視点とともに、そのまわりの修景、風景等も臨場感を漂わせるあり方も重要と感じた。</p> <p>子供達にとっての動物公園であると同時に若い人達にとっても（特に女性）魅力ある動物園であること、大人にとっても癒しの空間であることも大事と思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 老朽化が著しく早急な再整備が必要と感じた。</p> <p>ナイトサファリを検討してはどうか。</p>
--	--